

先生方のための徹底入試対策講座

第78回 ご参考に...

前回に引き続き、若手の高校教員から受けた相談の3点についてです。つまらない返答かもしれませんが、何かのご参考に...

1 数学の勉強を自分でやろうとすると、難しくて読めない

これについて、前回に言い忘れたことがあります。

まず、初めのステップとして、読みやすそうなものから、ゆっくりと、のんびりと、読んでみてはいかがでしょうか。ただ数学には、挫折が付き物です。数学の本を読み進めていくうち、どうにもわからないところが出て来ることもあります。そんなときは、その箇所をチェックし、いつかわかるかもしれない、そう思いながらおおらかに、先を読み進めるのです。ただし、ポイントは、そのチェックした

「わからないこと」は忘れずにいつも心に留めておく...

ということでしょうか。

2 入試問題が解けない

“入試問題”は、解けなければならないのでしょうか？ 解けなくてもいいのではありませんか。生徒たちに質問されることも少なくはないでしょうが、入試問題も、慣れれば勝手に解けるようになっていくものです。

では、そのためにはどうすればいいのでしょうか？

「何でこのような解き方をするのか」と思いながら、

解答を見て研究する、そしてそれを生徒に伝えてみる、それをやるだけで2~3年もすれば、その多くは勝手に解けるようになります。これは、数学の学力とは、あまり関係ないかもしれません。

ただし、入試問題は、だれでもいつでもすべて解けるとは限りません。なかなか解けないような問題も、結構出題されているのが実情です。その問題の数学的な背景や、定理の証明など、知識も必要となる場合もあります。（1）の数学の勉強にもつながることですね。

3 生徒を惹きつける余談ができない

ちょっと、偉そうなことを言っているかもしれませんが、先生が「数学は面白い」と思えるなら、生徒は授業についてくるようになると思います。そうすると、その授業は、自然と生徒を惹きつけることになっていくと思います。あせらずゆっくりと構えてください。ちなみに、僕は、数学以外の余談、雑談をすることはほとんどありません。

大切なことは、

数学のいい体験を増やすこと、いい経験をすること、
「なあるほど」と思うようなことにできるだけ機会を増やすこと

かな、と思います。

「へえー、すごいね」と思うことがあれば、生徒に「感動的に伝わります」。そういう意味でも、(1 や 2 の) 数学の勉強にもつながりますね。

.....

もっとも、こうしたことは、こうすれば解決するというものではないし、人により様々ですよ。いろいろと試しながら、考えながら、勉強を重ねていくことですね。

学校法人河合塾 開発研究職 数学科講師 大竹真一